

**保護対策について意見を交換**  
〜南信州・希少野生植物  
保護対策会議開催〜

二月二十五日、飯田合同庁舎で「平成二十二年 度第二回南信州・希少野生植物保護対策会議」が開催され、飯田、下伊那地域で自然保護活動を行う団体、自然保護レンジャー、希少野生動植物保護監視員、市町村など関係者二十二名が参加しました。

当日は、飯田市美術博物館専門研究員蛭間啓氏の講演、各保護団体の活動内容についての報告、希少野生植物の保護活動などについての意見交換が行われました。

講演は、「地域自然遺産(保護区)設定のすずめ」という演題で、希少植物の保護を通してその生育環境を保全していくことの大切さや、ハナノキ群落や棚田景観を例にした地域遺産の洗い出し、保全についてのすずめなどが話されました。また、意見交換ではサ

サユリ等が咲く里山の手入れの方法や、地域住民を巻き込んだ活動など、各団体の活動状況の報告を基に、参加者が意見を述べました。

その中で、保護活動を行っていくには、希少な植物等の生育状況をまとめた地図を作成し、情報の共有を図っていくことが必要ではないかとの意見も出されました。その一方で、どの程度までそのような生育情報を公開していくのがよいのかという声もありました。また、サユリの保護



活動について、今後はイノシシ、シカ、サル野生動物対策に力を入れるべきとの意見や、サユリが咲くのに適した環境はどのようなものかをこの対策会議で調べてみてはどうかとの意見も出されました。

事務局では来年度も年二回、対策会議を開催する方向で計画をしています。(矢崎記)

**「メガソーラーいいだ」を視察**

〜飯田・下伊那地球温暖化防止活動推進員研修会開催〜

三月九日、飯田・下伊那地区地球温暖化防止活動推進員の研修会が開催され、二十名が参加しました。今回は、県下初となる太陽光発電所の「メガソーラーいいだ」を、竣工式を前にして視察しました。

「メガソーラーいいだ」は、飯田市の川路地区に出力千kW、想定年間発電量は百万kWhを予定しております。この発電量は一般家庭三世帯分の年間使用電力量に相当するものであり、CO2の削減量は年間四百トンを見込んでいます。発電の原理は、家庭用太陽光発電と同じであり、ここで使用されているソーラーパネルは三菱電機(株)飯田工場で生産され、その数は四七〇〇枚にも及んでいます。また、発電された電気は地元の川路地区を中心に配電され、正にエネルギーの域産域消です。

その後、場所を飯田合同庁舎に移し、長野県環境審議会委員の平澤和人を講師に招き、学習会を開催しました。平澤氏からは、自然エネルギーの活用についての話がありました。その中では太陽光発電は有意義なものであるが、発電パネルの原材料が石油に依存していることがネックであること、長野県の自然環境を有効に活用するには木質バイオマスを今以上に普及していくことが大切であるなどの話がありました。(唐木記)



## リレーメッセージ

### 手作りエコカー・エレクトロ

#### 地球温暖化防止活動推進員

岡田幸人(高森町)

近年、CO<sub>2</sub>の発生が著しく、地球温暖化の影響と考えられる甚大な被害が各地で発生しております。

私が考える温暖化対策のモデルは、江戸時代の再生可能な生活や文化です。地球に優しく環境を何ら破壊することのない、そんな時代と、江戸のような大都市が過去に我国にはあったのです。その素晴らしいモデルを目指し



た、残り少なくなってきた化石燃料を一切使わない、CO<sub>2</sub>を全く出さないクリーンな乗り物、この実用化に、私たち飯伊地区の愛好者二十名余は取り組んでいます。乗り組んだ愛車を、心臓部を新しくして、少しでも安く(走行コスト(燃費対電費比)の実測値約六分の一)しかも、長く乗り続けようとする考えからです。これは、「も

つたいない」精神とも合致し、資源を持たない我国にとって、実に重大なことを考えます。

この手作りエコカーは、最低でも車検が通らなければなりません。今回は、車検が通ったという実績があったため、安心感を持って元の車のガソリンエンジンを外して、モーター

県では、平成二十三年三月十日から四月十日までを「テレビ等の不法投棄防止キャンペーン」期間とし、不法投棄防止パトロールを重点的に実施したり、街頭での広報・啓発活動を通じて、適正な処理を呼びかけます。ご存じのとおり、本年七月には地上アナログ放送から地上デジタル放送への完全移行が行われるため、テレビの買い替え

が必要になり、不要

が生じ、それは他との関連もあり、どうやって解決したらよいのか何回も苦慮しました。が、悩んだ末に、素晴らしい打開策が浮かんでそれが出来たその時は苦心がふつ飛ぶ喜びとなった」と答えました。

これからも、このエレクトロ君を増やして普及に努めたいと思います。

### 長野県からのお知らせ

#### 「テレビ等の不法投棄防止

#### キャンペーン」を実施中

不要となったテレビは、所有者が「特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)」により適正に処理を行うこととされていますが、リサイクル料金がかかるためか、道路、河川や山林等に不法投棄される事例が絶えず、そのため、県内のテレビの不法投棄発見件数は増加傾向にあります。



飯田・下伊那地域も、

平成二十一年度の二十八台に対して、二十二年度は一月末時点で、既に三十四台に達しています。今後、三月の引越越しシーズンや地上デジタル放送完全移行時には、更に増えることが危惧されます。

例を見ない規模の東日本大地震、津波そして原子力発電所事故が発生し、多くの方が被災しました。被災されました方々には心からお見舞い申し上げます。

今回の原発事故で、安全への信頼が失せるとともに、人体、環境に与える大きな影響が心配されます。現代に生きる身として何を犠牲にするか、何を我慢するか、もう一度考えなければなりません。

日々、小さな努力を積み重ね環境に配慮してきた成果が一瞬にして消え去ることのない、また、想定外の一言で責任逃れさせられることのない社会が構築されることを強く望みます。

(今村記)

### 編集後記

ながるものと信じて地道に活動していきますので、ご協力をお願いいたします。(掛川記)

# 暖地性のシダが自生

希少野生動物保護監視員

古松 隆明（飯田市）

伊那谷には、シダの種類が多いといわれています。ヤシヤイノデ（イナイノデ）のようにシカによる被害等から保護回復活動が行われている種もあります。また、分布限界に近づいて生存しているシダもあります。その一種にマツザカシダがあります。このシダは、暖地性で照葉樹林の林縁や路傍に自生し、長野県では一九九七年に天龍村で発見され県の絶滅危惧Ⅰ-A類になっています。

このシダが、飯田のござこし子どもの森公園南側、標高五百六十メートルの杜叢林縁の浸潤な側溝にも自生していることを同定していただき確認できました。側溝近くの公園への小径は改修されていますが、改修以前からイノモトソウ、オオバノイノモトソウ等が混生していました。しかし、葉身が冬枯れしてしまうため、マツザカシダが見分けられなかったのです。

お、盆栽しているシダがマツザカシダではないかとの情報を得ましたが、栽培種としてオオバノイノモトソウの変種やマツザカシダに似たシダが輸入されておられ、大塚氏によると固有種のマツザカシダといふことは分かっていないとのことでした。

現在、人家の方に石垣や水路の改修、除草などの際は留意していただくよう依頼しています。



マツザカシダ

ますが、現状の保全と生育の観察を続けたいと思っています。

## 不法投棄監視パトロールを通して

不法投棄監視連絡員

大井 慎一（平谷村）



橋の上に立つと下を覗き込みたくなる。下を覗き込むと何かを落とすことにはあるかも知れない。しかし、だからといってゴミを落としていいという事にはならない。橋の袂にはペットボトル・

コーヒー缶・弁当パッケージ等々のゴミが投げ捨てられている。国道沿いにコンビニ袋ごとポイ捨てする輩にも閉口するが、橋の下へのゴミ投下は何とかならないものか。

以前、橋の横の待避所に大量のダンボールが投棄されていたことがあった。何でこんな所にも思いつたが、山中にも持ち込めず、かといって橋の上からも投げ落とせず、そのまま放置したのかも知れない。

毎春、村民全員で国道沿いのゴミ拾いをする機会があるが、ゴミの多い場所には投下防止のネットを張ったりしている。また、山中に入る主要な作業道の入口にはゲートが設置され、一般の車が入れないようにした。そのため、大型車両による不法投棄はなくなった。しかし、川には釣り、山には山菜摘み・キノコ

元の人々が楽しく参加できる工夫をすること、もう一つはこのムーブメントの趣旨である午後八時からのライトダウンに参加する家庭を増やすことです。

そのためイベント後に地元の関係者や自治体の方々と意見交換を重ねてきました。その中で六月の第三日曜日の「家庭の日」にキャンドルナイトを併せて実施していただくとする実現可能なアイデアが出てきました。飯田市では「家庭の日」は「わが家の結いタイム」と名付け積極的に取り組んでいます。そこで市教

## みんなで支える森林づくり 地球温暖化防止活動推進員 矢澤 由美子(飯田市)

平成二十年四月から、長野県森林づくり県民税が導入され集中的な森林づくりが始まりました。私は地球温暖化防止活動推進員として、みんな

で支える森林づくり南信州地域会議に出席しています。年に数回、事業の進捗状況の視察を行っています。年々、それぞれの地域の方たちが自分たちの住んでいる地域の山を元気にしたいという熱意を強く持つていると感じ、現地を見て森林の整備の重要さと大変な時間や労力を要することを実感しています。

このことから、太陽エネルギーによって支えられた再生可能な資源である森林を「育てて使い、使つて育てる」という発想を理解し、地球温暖化の防止や循環型社会を構築する

は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を光合成により吸収し、炭素を固定する働きをしています。

上で森林や木材資源の持つ意味を長野県民一人ひとりが考えていくべきではないでしょうか。

若い女性が大勢登っていること。男性ばかりより和やかで色彩も美しく、とてもよいことだと思います。

また、各山小屋が清潔になり感じました。小屋の使用状況もそれについてスマートになり、良いことが波及したのだと思います。夕方の小屋の雰囲気はとても和やかで美しいものでした。

森林は県土の保全や水源のかん養、林産物の供給、多種多様な生物の生息・生育する場として私たちの暮らしと密接に関わっています。また、過疎化、高齢化、林業の担い手不足に伴い森林を支えていくことが困難な状況になっており、これも重要な課題です。



例年、夏には入山が制限される南アルプスへ足を伸ばしていましたが、平成二十二年の夏は、いつもと違うことを感じました。それは、

### 南アルプスの様変わり

自然保護レンジャー  
村上和彦(下條村)

再生可能な資源である森林を「育てて使い、使つて育てる」という発想を理解し、地球温暖化の防止や循環型社会を構築する



間伐材活用例

例年、夏には入山が制限される南アルプスへ足を伸ばしていましたが、平成二十二年の夏は、いつもと違うことを感じました。それは、

また、各山小屋が清潔になり感じました。小屋の使用状況もそれについてスマートになり、良いことが波及したのだと思います。夕方の小屋の雰囲気はとても和やかで美しいものでした。

注文をつけるとしたら、案内標識が傷ついていたこと。静岡県と長野県境を走る登山道は、互いに引いてしまうこともあると思いますが、案内標識は、生命の鍵を握ることもあり、注意して管理する必要があります。

私は、七月に塩見岳から聖岳まで六日かけて縦走しましたが、最後の晩

## キャンドルナイト in 南信州

確実に地域に浸透

百万人のキャンドルナイト in 南信州実行委員会では、十二月十八日(土)午後八時から各家庭や地域でライトダウンをするよう地元FM局や市町村のオフトークなどを通じて呼びかけました。

また、当日は、りんご並木のエコハウス(飯田市本町)、風の学舎(同下久堅)、島畑(同南信濃)を拠点とし、蜜ろうキャンドルづくりや環境映画の上映などのイベントを行いました。



実行委員会形式となり四年目を